



修学旅行3 . . . まだ、奈良には着かない？



途中、サービスエリアに寄ってトイレ休憩をした。皆さっとトイレだけ済ませるとすぐバスに乗り込むのだが、一人だけトイレの横あたりに佇み、名残惜しそうにいつまでもそこから離れようとしていない男の子がいた。

「さあ、バスに戻ろう。出発するよ。」と、声をかけた。

「ちょっと、これを見てください。」と、彼が指し示す方を見ると、窓に1枚の紙が貼られていた。先ほどトイレに行くときには気がつかなかったが、トイレの横はラーメン店になっており、その入り口の窓に、湯気が立ち上っていきそうなラーメンの写真と各種定食表が掲示されていた。

「僕、ラーメン食べたいです。」
「奈良についたら、すぐにおいしいお昼ご飯が待っているよ。」

「僕、ラーメンが好きなんです。このC定食を見てください。最高じゃないですか。今、食べたいです。」

「そりゃあ、おいしそうだけど。まあ、家に帰って食べればいいんじゃない。」

「僕、ここのラーメンが食べたいです。家に帰ったら、ここのラーメンをまた食べに来ます。」

それで自分なりに納得したのか、Kくんは潔く身を翻しバスに乗り込んだ。

奈良に向かうバスの車窓から見える景色に、時折子ども達の歓声が上がった。

「わ～、太陽の塔が見える。」

「あっ、あべのハルカスだ。」「モノレールだ。」「大阪城だ。」

「ラーメン屋だ。」

こうして、最初の目的地、法隆寺に無事到着した。

「あれは〇〇です」とガイドさんは言った



法隆寺には、いっぱいの子学旅行生や観光客がいた。日本最古の木造建築物をしっかりと確認し、その後、奈良公園に移動した。

鹿せんべいを買って、最初は恐る恐る鹿に近づいていく子ども達。慣れてきたら、そっと背をさすってみたりもした。

鹿と触れあった後は東大寺に徒歩で移動した。最初に二月堂へ。ここに来たからには、必ず子ども達に話をしなければならないことが一つあった。それは今から20年ほど前、



修学旅行でここに来たときにベテランのガイドさんから教わったことで、それ以来、二月堂に来たら話すことにしているものであった。また、ある時、新人のガイドさんと二月堂に来たとき、子ども達にその話をしているのを聞いたガイドさんから「今の話、私もこれから使わせていただきます。」と、ありがとうそうにお礼を言われたこともあった。もしかしたら、こんなふうに口伝えで広がっているのかもしれないと、感慨にも似た心情に浸りながら、そっと子ども達に話しはじめた。「ほら、あそこに見えるのが二月堂だよ。」「それで、あっちが三月堂で、そっちが四月堂。」



そこまで話すと体の向きを変えて、次の建物を指さす。

「でね、あのむこうに見えるのが、何だかわかるかな？」

「あれはね、食堂。」

子ども達は東大寺に進み、そこでのミッション「外国人の方に英語でインタビュー」を始めた。気後れすることなく積極的に話しかける2班チームと、遠慮がちに声をかける1班チーム。笑顔で対応してくださる皆さんと記念撮影も行った。その後、大仏様や仁王像を間近に見上げその大きさや荘厳さに感嘆し、平城京1300年の歴史を肌で感じるのであった。